

事務事業評価

平成 23 年度

担当グループ 社会教育グループ

基本事項	事務事業名	島原半島ジオパーク「トレジャーストーン バスの旅」事業				整理番号	2423	
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	▼	予算目	10 款 4 項 1 目	<input type="radio"/> 継続 <input checked="" type="radio"/> 新規		
		節 第4節 生涯学習の充実	▼	事業区分	市民サービス事業		▼	
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	平成21年8月に、島原半島地域が、日本で初めて「世界ジオパークネットワーク」への加盟が認められ、平成24年5月には、第5回ジオパーク国際ユネスコ会議が、この島原半島で開催される。世界ジオパークの認定後は、4年ごとに再審査が行われ、再審査によって基準を満たしていないと判断された地域は、認定を取り消され、世界ジオパークを名乗ることができなくなる。そのため、ぜひ、今後も本事業の実施を進める必要があると考える。				計画期間	始期 平成 22 年から 終期 平成 24 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	各地区の小・中学生を対象に、「島原半島ジオパークのいろいろな石等について調べ、自分だけの岩石標本等をつくらせることを通して、美しい自然を守り、自分たちが住んでいる郷土を愛し、次代を担う心を育てる。」という目的で実施する。						
	目的達成のための手段・方法	青少年健全育成協議会と公民館が連携し、島原半島ジオパーク事務局へ講師を依頼して実施する。講師と相談して設定した島原半島内のジオサイトのコースをバスで見学して廻り、ジオパークについての学習を行う。ジオパークについての疑問を、講師に尋ねたり、現地を調べたりすることを通して解決し、島原半島ジオパークへの思いを深めていく。						
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単位	21 年度	22 年度	23 年度	
		①子どもたちは、現地に行き、講師の指導のもと、島原半島ジオパークについて実際に調べるなど体験活動を通して、自分たちが住んでいる島原半島のよさを実感しているが、子どもたちの故郷への思いは成長とともに培われていくため、成果指標の設定がしにくい。 平成22年度は10月からの事業開始であったため、3地区の実施であった。平成23年度は実施の地区を広げていく。		目標				
		②		実績 達成率	%			
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①		目標					
	②		実績 目標					
			実績					
事業費等の推移	年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	
	区分	実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画	
	①直接事業費(千円)				374	917	787	
	財源内訳	国 県 支 出 金				374	917	
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源	0	0	0	0	0	787
	②従事職員給与費 b1×b2	0	0	0	860	868	873	
	従事職員数(人) b1				0.12	0.12	0.12	
		職員平均人件費 b2	7,179	7,153	7,162	7,168	7,236	7,277
事業費合計 ① + ②	0	0	0	1,234	1,785	1,660		

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 平成24年5月に、第5回ジオパーク国際ユネスコ会議が本市で開催されるなど、住民の意識を高める必要がある。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 公民館や青少年健全育成協会を中心に、この事業を通してジオパークの意識を高める必要がある。	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切ではない 平成24年度、この事業は3年目であり、ジオパークの市民への周知が必要である。	A
有 効 性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 島原半島ジオパークについて子どもたちや地域の人たちの理解が深まってきている。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 子どもとおおた、保護者・地域の人たちへジオパークについての理解が図られている。	A
効 率 性	⑥活動量や成果を下げずにコストを縮減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 バス代のしめる予算の割合が大きく、業者から見積をとり、コストの縮減に努めている。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 2カ年ジオパーク事業を実施し、おおたの理解が得られてきた。公民館講座の1つに入れて、実施も可能である。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 公民館と連携し、事業のあり方について改善を図っていく。	B
公 平 性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 各地区公民館や青少年健全育成協会と連携し、ジオパークの周知が図られるよう進めていく。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
			判定評点平均 A=3、B=2、C=1、D=0として換算 2.80

◎ 総合評価	
評 価 結 果	◎ A 継続実施(特段の見直しは行わない)
	B 改善・見直しを行う
	○ B1 事業規模の拡充
	○ B2 事業規模の縮小
	○ B3 事業内容の改善・見直し
	○ B4 その他の見直し
	○ C 休止(隔年実施などへの変更)
	○ D 廃止(終期の設定等を含む)

判断理由
この事業以外にも、小学6年生や中学1年生を対象に、島原半島ジオパーク事業を学校の授業として実施しているため、ジオパークに対するおおたの理解は得られてきた。第5回ジオパーク国際ユネスコ会議が本市で開催される平成24年度まで実施後、事業のあり方を見直していきたい。

今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 平成24年度でこの事業を実施して3年目となる。各地区公民館や青少年健全育成協会と連携し、ジオパークについて子どもたちや保護者・地域の人たちへの周知を図る。平成25年度以降は、公民館講座の1つに入れて、実施も考えていく。
<small>・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。</small>	

【2次評価】

総合判定	D 廃止
備考	2年間の事業実施で一定の成果は得られていると思われ、今後、県の全額助成もなくなることもあり、子どもたちについては学校活動の中で取り組み、一般については公民館活動として、映像を使った紹介・学習活動などに替えていっても良いのでは。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	△ 130 (千円)